

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
麦 類	うどんこ病	並	並
きゅうり	べと病 うどんこ病 褐斑病（防除情報第13号） 菌核病 灰色かび病 ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	並 並 やや多 やや多 並 やや少 やや少	並 並 やや多 やや多 並 並 やや少
トマト	黄化葉巻病 灰色かび病（注意報第7号） コナジラミ類	やや多 やや多 並	やや多 やや多 並
たまねぎ	白色疫病 べと病 ネギアザミウマ	やや多 並 並	やや多 やや多 並
いちご （本圃）	うどんこ病 灰色かび病（注意報第7号） アブラムシ類 ハダニ類	並 多 やや少 並	並 多 やや少 並
かんきつ	かいよう病	やや少 （越冬病斑）	やや少
	そうか病 ミカンハダニ	並 （越冬病斑） やや多	並 やや多
茶	カンザワハダニ	やや多	やや多

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

麦 類

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の巡回調査（大麦9筆、裸麦6筆、小麦15筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

イ 3月3半旬の県予察圃場（無防除、諫早市）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

きゅうり

1. べと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発病葉率4.2%(6.5%)、発生圃場率63.6%(51.0%)であった。

2. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発病葉率8.3%(7.7%)、発生圃場率72.7%(63.6%)であった。

3. 褐斑病

平成21年3月16日付病害虫発生予察防除情報第13号による。

4. 菌核病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発病果率0.2%(0.0%)、発生圃場率18.2%(4.9%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本病は花卉に感染した後果実に侵入するので、花卉の発病を認めたら速やかに防除を開始する。

イ 多湿にならないよう圃場の排水に留意し、換気をこまめに行う。

5. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発病果率は0.3%(0.2%)、発生圃場率9.1%(11.0%)であった。

6. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の巡回調査(11筆)の結果、寄生葉率0.8%(1.8%)、発生圃場率27.3%(30.9%)であった。

イ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高い見込みであり本虫の発生に好適である。

7. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(11筆)の結果、寄生葉率0.2%(2.8%)、発生圃場率9.1%(31.3%)であった。

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率0.8%(前年1.1%、前々年0.0%)、発生圃場率33.3%(前年41.7%、前々年25.0%)であった。

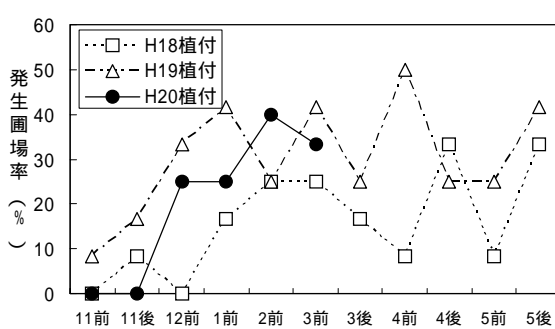


図 トマト 黄化葉巻病 発生圃場率の推移

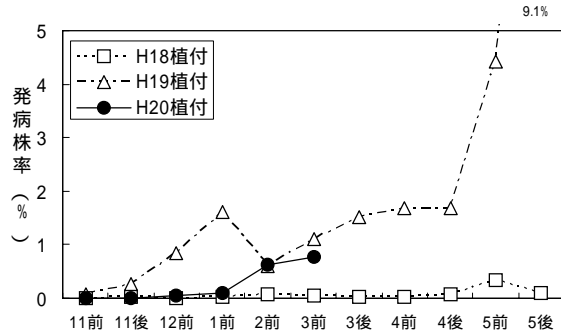


図 トマト 黄化葉巻病 発病株率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

黄色粘着板等でコナジラミの密度を把握し、防除を徹底する。また、発病株の抜き取り及び適正処分を徹底する。

2. 灰色かび病

平成21年3月16日付病害虫発生予察注意報第7号による。

3. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率0.7%(0.8%)、発生圃場率25.0%(15.7%)であった。

たまねぎ

1. 白色疫病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発病株率0.5%(0.2%)、発生圃場率26.7%(3.3%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 排水につとめ、過湿を避ける。

イ 十分圃場観察を行い早期発見に努め、発生を認めたら速やかに薬剤防除を行う。

ウ 罹病した葉、枯死した葉は感染源となるので、適切に処分する。

2. ベと病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発病株率0.1%(0.1%)、発生圃場率6.7%(1.7%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 肥料切れしないように肥培管理を適切にする。

イ 十分圃場観察を行い早期発見に努め、発生を認めたら速やかに薬剤防除を行う。

ウ 罹病した葉、枯死した葉は感染源となるので、適切に処分する。

3. ネギアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は29.7%(22.0%)、発生圃場率73.3%(74.2%)であった。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病株率0.0%(0.2%)、発生圃場率3.7%(5.0%)、発病果率0.0%(0.0%)であった。

2. 灰色かび病

平成21年3月16日付病害虫発生予察注意報第7号による。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率0.5%(1.0%)、発生圃場率3.7%(10.6%)であった。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率5.6%(4.5%)、発生圃場率25.9%(33.9%)であった。

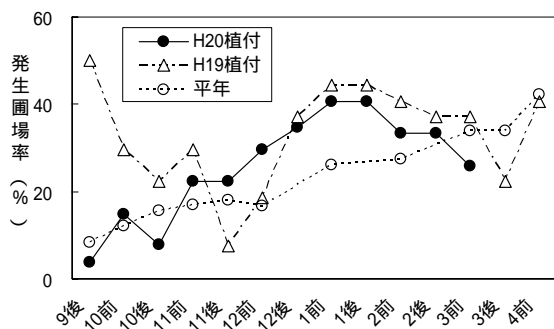


図 いちごハダニ類 発生圃場率の推移

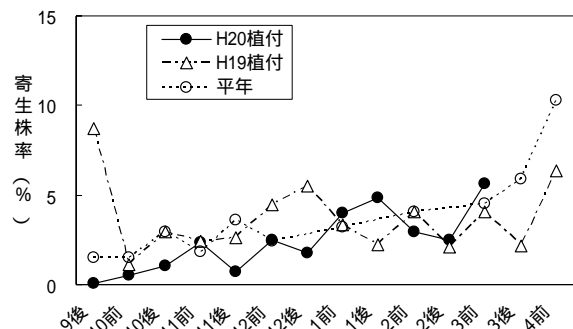


図 いちごハダニ類 寄生株率の推移

かんきつ

1. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病葉率0.1%(0.6%)、発生圃場率28.2%(26.0%)であった。

2. そうか病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病葉率0.0%(0.0%)、発生圃場率5.1%(1.2%)であった。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率2.7%(2.4%)、発生圃場率41.0%(29.8%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

冬期のマシン油乳剤を散布していない園では、今後発生の増加が予想されるので十分に注意し、多発した場合は殺ダニ剤を散布する。

茶

1. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(16筆)の結果、寄生葉率2.6%(0.9%)、発生圃場率43.8%(23.5%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤のかけむらがあると防除効果が落ちるので、葉裏まで十分にかかるよう散布する。

イ 摘採時期が早い早生の圃場では農薬使用基準に特に注意する。

ウ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一薬剤は連用しない。

【参考】

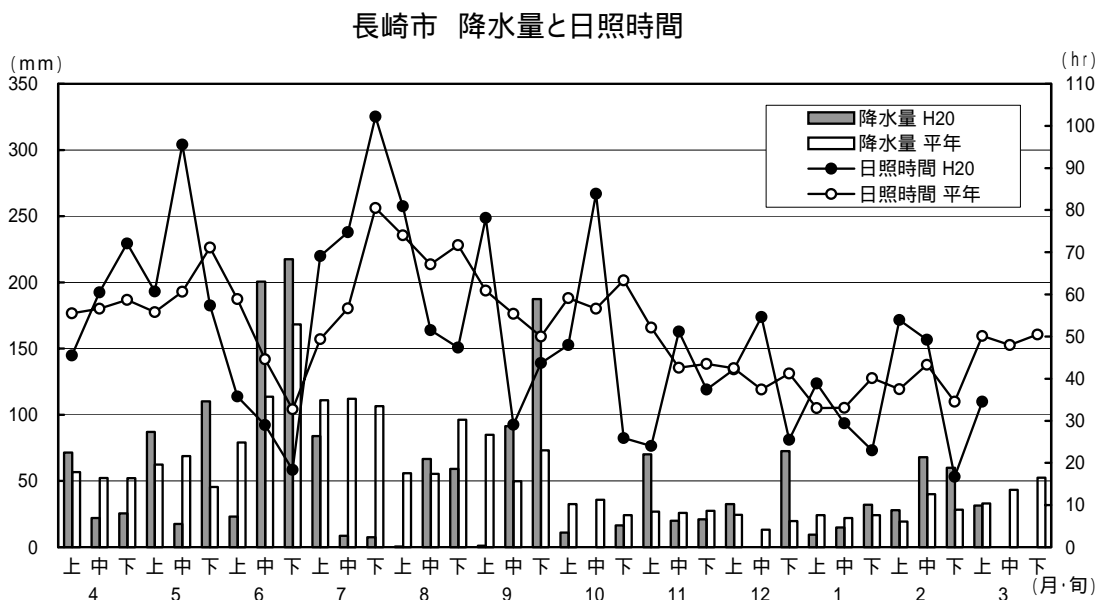
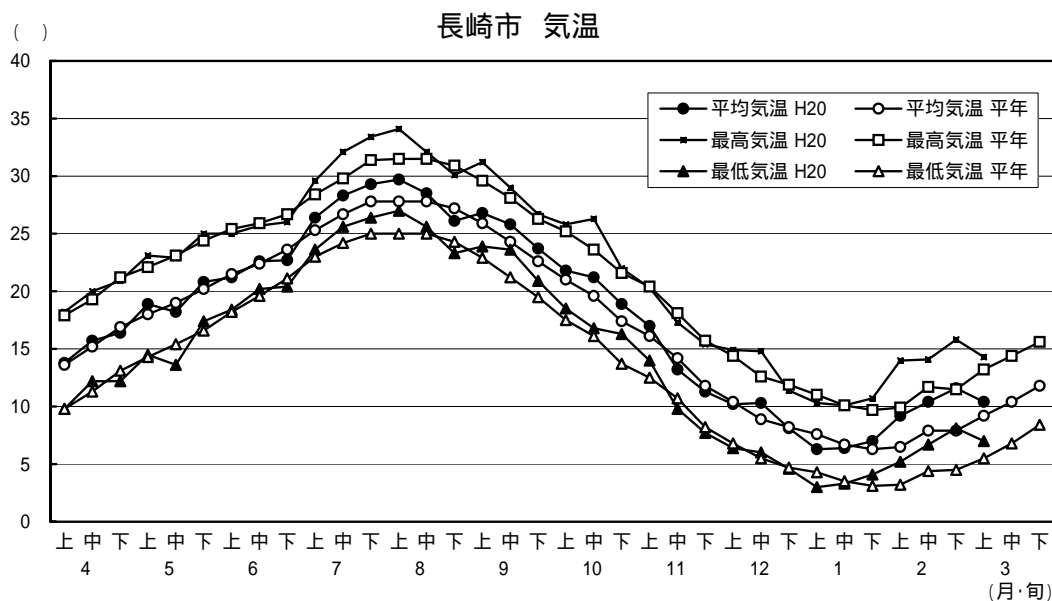
気象 (平成21年3月13日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	40	50
降水量	40	40	20
日照時間	20	40	40

予報対象地域：九州北部地域

平成20年度の気象経過



病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027